

人々の記憶の重ね合わせ

○概要

「意識していなかった人々の記憶に触れるということ」

そしてそれが重なった時に現れる人々の微妙な差異そのものが現代を映し出す表現であり、後世への糧となる。

例えばインスタグラムのハッシュタグや位置情報にしても、同じだけどみんな見ると撮るところが違うわけで、加工やフィルターにしても同じアプリの中でそれぞれの差異を自己の表現として表している。

時間や空間を絶対値として与えられているなかで、そこから人々の解釈、記憶、感性、を通じて見出される思考や感情は多義的であり、その微妙な差異こそが現代のメディアを通して「個の表現」へと繋がっているように思う。

○表現方法

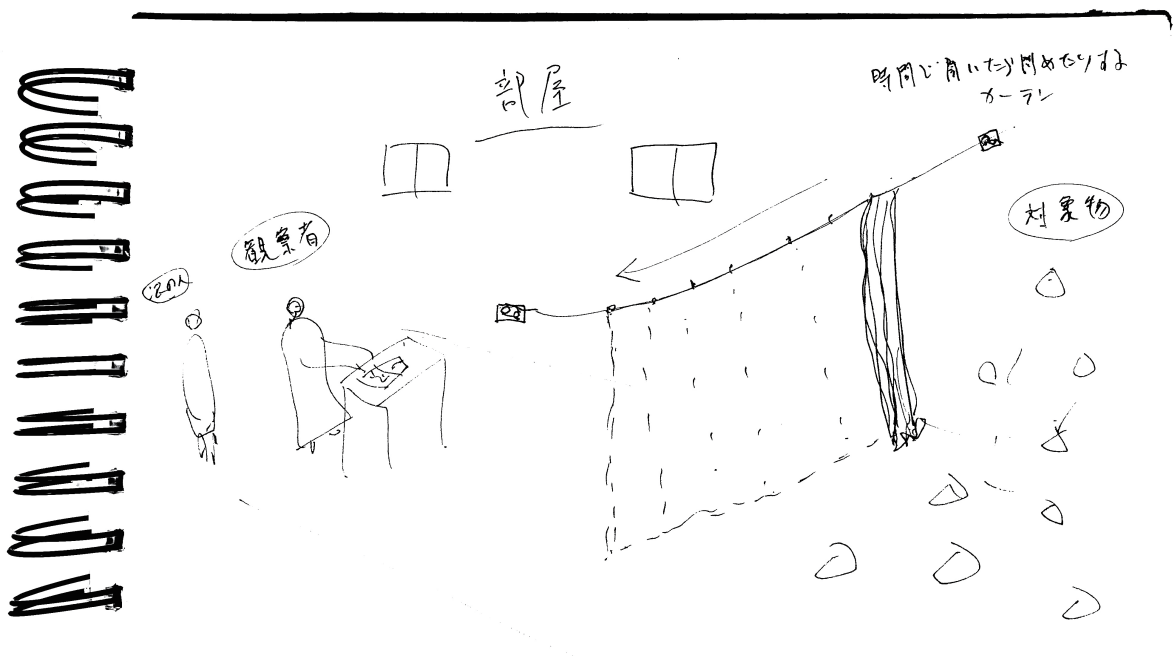
sketch / drawing 、アーカイブ映像

○必要なもの

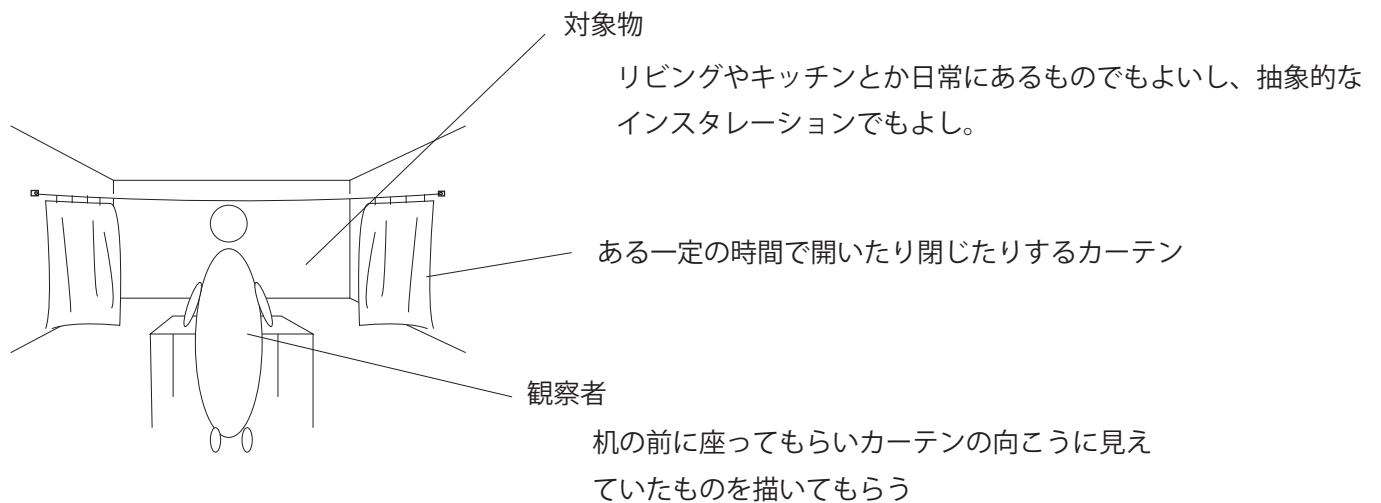
部屋、対象物（相談）

カーテン（自動で開いたり閉じたりしたらアーカイブ映像にした時にかっこいい）、

紙、トレーシングペーパー、カラーペン ＊データで行うなら iPad

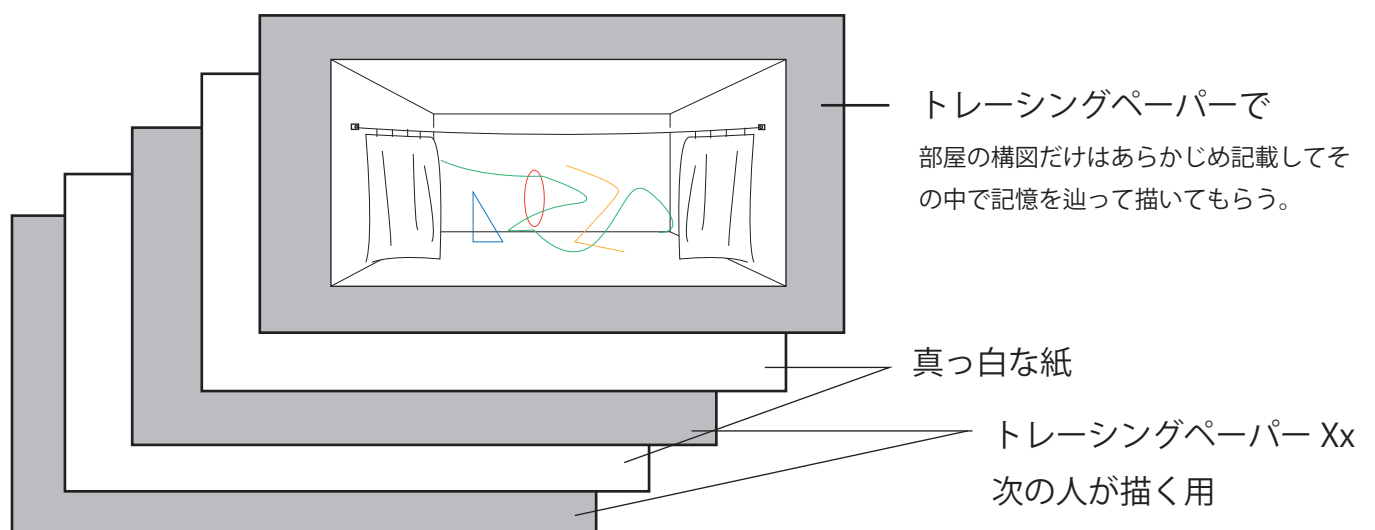


○ 記憶ゲーム



描き方（アナログ的手法）

- ・机の上にはトレーシングペーパーと白い紙を交互にし観察者にはトレーシングペーパーに描いてもらう。



*色をつけるとわけがわからなくなるので対象の輪郭にその色をつけて表現してもらう。



最後に白い紙を抜いて観察者全員の見えていたものを重ねる。

描き方（データ手法）

- ・iPad に同じように部屋の骨格だけ書かれたものに描いてもらう。
後々、PNG データに変換してレイヤーを重ねる。